

## 親子向けフィールドセミナー「地球教室」: その1 徳山ダムのメランジェ

## Earth School: Field Seminar for Parents and Children; 1. Melange around the Tokuyama Dam

# 亀高 正男 [1]; 西本 昌司 [2]; 中村 壽男 [2]; 吉田 英一 [3]; 桂田 祐介 [3]; 東田 和弘 [4]; 毛利 勝廣 [2]; 足立 守 [5]  
# Masao Kametaka[1]; Shoji Nishimoto[2]; Hisao Nakamura[2]; Hidekazu Yoshida[3]; Yusuke Katsurada[3]; Kazuhiro Tsukada[4]; Katsuhiko Mouri[2]; Mamoru Adachi[5]

[1] 名古屋大学博物館; [2] 名古屋市科学館; [3] 名大博物館; [4] 名大・博物館; [5] 名大・博物館

[1] Nagoya Univ. Museum; [2] Nagoya City Science Museum; [3] NUM; [4] Nagoya Univ. Museum; [5] Nagoya University, University Museum

名古屋大学博物館と名古屋市科学館は、親子向けのフィールドセミナー「地球教室」を連携して行っている。この事業は、科学技術振興機構の研究者情報発信活動推進モデル事業の一環として行われており、大学と地域博物館の連携の実験例としても注目される。2006年度には一般向け8回、科学館関係者向け1回の計9回のイベントを実施した。宿泊付きのイベントを除くと、1回のイベントでは室内での学習会を1日、日帰りの現地学習会を1日の、2日間セットで行っている。ここでは「第3回地球教室 徳山ダムの岩石を調べよう!!」(以下、地球教室(徳山ダム))の概要を報告し、今後の課題などを述べたい。

徳山ダムは岐阜県揖斐川町の揖斐川上流に建設された日本最大級のロックフィルダムである。通常は工事現場の見学は許可されていなかったが、今回は読売新聞社主催の「みずウオーク」と連携することにより、水没予定地点での地質見学会を行うことが可能となった。地球教室(徳山ダム)の日程は湛水試験の始まる直前の8月19日(土)、20日(日)の2日間となった。このイベントの目的は、参加者の付加体に関する理解を促進させることと、注水前の徳山ダムの姿を記憶に残すことにある。

イベントの定員30名に対して応募者は35名(17家族・組)で、全員に案内を送付したが、若干のキャンセルがあり参加者は25名(13家族・組)となった。他の回と比較して、応募者に子供・大人を問わず男性が多かったのが今回の特徴である。

初日(19日)は、名古屋市科学館でプレート・テクトニクスと付加体についての解説と、断層形成実験を行った。まず、岩石や地層の基礎的なお話からはじめて、付加体の断層やメランジェの形成までの解説を行った。その後の実験では、ココアパウダーと小麦粉を用いた断層形成実験を行った。この実験は、付加体形成時のスラストの発達過程を再現するのに大変有効である。

2日目(20日)は名古屋からの日帰りで現地学習会を行った。徳山ダム周辺には美濃帯のジュラ紀付加体が分布している。見学地点は2カ所で、1)コア山(ダムのコア材採取地)付近の砂岩(左門岳ユニット)と緑色岩(舟伏山ユニット)、およびユニット境界の断層の観察、2)ダムサイトのロック材として使われているメランジェの観察をした。現地ではハンマーやルーペを使って、岩石を採取してもらった。ダムサイトではストーン・ペインティングを行い、サイン入りの岩石をダムサイトに残してきた。

イベント実施後のアンケートは概ね好評で、「よく見ると石や植物はおもしろい(19名)」、「自然に関心を持つきっかけになりそうだ(18名)」の項目にチェックをした人が多く、自然への関心を喚起するという点では成功したと思われる。また、「持ち帰って部屋に飾れるのが良い」にチェックを入れた子供が多かったのに対し、大人が1人もこの項目にチェックをしなかったのが興味深い。自由記載欄では「初日の内容が子供にはやや難しかった」との指摘があったが、一方で「1日目の講義内容は難しかったが、2日目の理解に有用であった」とする好意的な意見もあった。岩石や地層について学んでいない小学生には、今回の内容はやや難しかったと思われる。しかし、それらをクリアしている中学生や大人には、付加体やメランジェを題材にした野外セミナーが十分企画可能であることがわかった。ただし、そのためには解説や実験などの事前学習会を行うことが肝要である。また、プレート・テクトニクスについては普及書も多くあり、一般市民の知識も多いと思われるが、付加体の概念の普及はまだ十分とはいえない。付加体の概念をかみくだいて、よりわかりやすく説明していく努力がもっと必要であると考えられる。